科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP	学習成果
環境政策論	南　有哲	講義	2		1,2,3	1,2,5	2,3,4

授業概要 授業目的	21 世紀の市民にとっては、環境問題について生活者の立場から発言し行動するだけでは不十分であり、政治に参加する権利を持つ者として環境政策に積極的にかかわっていくことが求められるものと考えられる。本講義の目標は、環境政策を考える上での基本的な概念となる「環境問題」「市場経済」「国家」について概観した後、現代における環境政策の核心ともいえる「気候政策」について説明し、あるべき環境政策のあり方について考察する予定である。
到達目標	「環境政策」が必要とされる根本的な原理的・歴史的・社会的背景について理解を深める。特に、現代において最重要とされる「気候政策」については、報道される内容をよく理解し、自らの頭で生活者・主権者として思考し行動できるようになることを目標とする。

回	学習内容
1	はじめに―「人新世」としての現代
2	自然と人間の関係について
3	環境問題の一般的構図
4	環境破壊の人類史―先史時代から中世まで
5	工業化について
6	市場経済と共同体
7	市場経済の必然的所産としての環境問題
8	市場経済と国家――環境政策の必然性
9	南北問題の史的背景―新大陸征服・奴隷貿易・植民地支配
10	南北問題の現状と環境破壊
11	気候政策の国際的展開―気候変動枠組条約と京都議定書
12	気候政策の国際的展開―パリ協定とそれ以降
13	日本における気候政策の展開――旧自公政権期から民主党政権まで
14	日本における気候政策の展開――新自公政権期以降
15	試験　講評

予習内容 復習内容	予習に関しては、あらかじめ配布した資料の次回該当部分の提示を受け学習する。 復習に関しては、毎回小レポートで当日の講義の振り返りを行い、疑問・質問について次回講義にて回答を受ける。
教科書	特に指定せず。独自に作成したレジュメや図表など資料を配布する。
成績評価	毎回小レポート…50%　試験…50%
実務経験	なし
その他 特記事項	毎回小レポートに内容の記載がない場合、その回のレポートについては「不可」扱いとする。